

水稻V溝乾田直播栽培の生育状況（6/4現在）

農林総合研究所のV溝乾田直播見本栽培では、5月27日から入水を開始し、6月4日に一発除草剤（カウントダウンジャンボ）を散布しました。水稻の生育状況は、以下のとおりです。

【耕種概要】

- ①品種 まっしぐら
- ②播種床造成 秋季耕起・代かき
⇒ 均平（4月24日）
- ③種子処理 種子消毒後に浸種し、
キヒゲンR2フロアブル塗沫
- ④播種機 V溝播種機
- ⑤播種日 4月26日
- ⑥播種量 乾籾10kg/10a程度
- ⑦施肥量 窒素成分10kg/10a程度（LP100）



写真1 除草剤散布後の様子
（撮影日：6/4）

【入水状況】

入水は、イネの草丈に合わせて、ゆっくりと水位を上げました。一発除草剤散布時の水位は、水深が浅い地点で5cm程度、深い地点で15cm程度になっています。

【一発除草剤散布のポイント】

一発除草剤の除草効果を安定させるには、有効成分が土壌に吸着した処理層を形成する必要があります。一発除草剤散布後に入水を繰り返すと、処理層の形成が妨げられることから、薬剤散布してから5日間に入水しなくても良い水位を確保しましょう。



写真2 入水2日目（撮影日：5/29）



写真3 入水7日目（撮影日：6/3）

【水稻の生育状況】

6月4日時点の見本栽培圃場における水稻の葉齢は、個体や地点によるバラツキがありますが平均すると2.5～3葉期程度です。



写真4 水位が浅い地点（左）と水位が深い地点（右）の生育状況
（撮影日：6/4）

【今後の栽培管理】

例年の見本栽培の㎡当たり穂数は、500～600本程度です。㎡あたり600本程度の有効茎を確保するまでは、浅水気味で水管理を行います。

【出芽が遅れている圃場の対応】

5月6日以降は降雨が少ないため、出芽が遅れている圃場もみられます。水稻の出芽が揃わない場合でも、ノビエなどの雑草の葉齢と薬剤の使用時期、使用上の注意事項を確認して適期に雑草防除を行ってください。

薬剤の使用時期については、ロイヤント乳剤やハードパンチDFなど、水稻の葉齢が薬剤散布の早限になっている選択性茎葉処理剤もあるので注意してください。

【X（旧Twitter）での情報提供について】

農林総合研究所の公式Xアカウントを開設しました！

水稻V溝乾田直播栽培の生育状況をはじめ、研究所の活動や研究成果、イベント、お知らせなどの情報を発信していきます。

詳しくは、農林総合研究所公式Xアカウント（右のQRコード）をご覧ください。

